

教科等横断的な視点に立った授業づくりに関する研究（1 / 2年）

【教職員研修担当】



キーワード：「各教科等における見方・考え方」、「学習の基盤となる資質・能力」、「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」、「カリキュラム・マネジメント」

1 はじめに

- (1) 学習指導要領(平成29・30・31年告示)では、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力など、学校として、教科等横断的な視点で育成を目指す資質・能力を明確にし、その育成に向けた適切な指導がなされるよう配慮することと示された。
- (2) 『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（令和3年1月26日答申）においても、指導計画を立案するに当たっては、「社会に開かれた教育課程」の理念の下、社会とのつながりの中で、教科等を学ぶ本質的な意義を大切に、教科等横断的な視点に立って、資質・能力の育成を目指していくことの必要性が示された。

これらを踏まえ、教師の授業力向上及び児童生徒の資質・能力の育成に資するため、本主題を設定した。

2 研究目的・目標

(1) 目的

各教科等の見方・考え方を働かせながら、児童生徒の資質・能力を育成する「教科等横断的な視点に立った授業づくり」の実現

(2) 目標

- ① 身に付けたい資質・能力の設定及び教科等横断的な視点による授業改善
- ② 具体的な事例 / 授業づくりの視点・進め方の提示
- ③ 研究成果を全県・全国へ発信

カリキュラム・マネジメントの充実に向けた取組を支援するため、**教科等横断的な視点による授業づくりに係る事例の開発や推進のモデル化**を行い、実践を踏まえて**授業づくりや学びの変容の具体**を広く発信する。

3 研究の方針

- (1) 児童生徒の資質・能力の育成に向け、学習指導要領等で示された「教科等横断的な視点」に則した実践を行う。
- (2) 指導主事と研究協力委員が、国や県の最新の動向や学校現場の課題を共有し、大学教授等の有識者の指導を仰ぎながら、協働して課題解決に向けた実践を行う。
- (3) 児童生徒の「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」を育成するための指導における活用方法の開発と実践を行う。
- (4) 本調査研究で得られた成果や知見を、年次研修等に活かすとともに当センターのホームページに掲載することで、評価される機会を得ながら研究の改善を図る。

4 研究方法

- (1) 以下の各教科等について研究協力委員を委嘱し、指導主事と協力して調査研究を行う。
- (2) 研究協力委員は、小学校2名、中学校2名、高等学校3名を原則とする。
- (3) 研究協力委員会(年5回)における研究テーマについての協議、検証授業等を通して研究を進める。

小学校：国語、社会、算数、理科、音楽、図画工作、外国語活動、体育、特別の教科 道徳
 中学校：国語、社会、数学、理科、音楽、美術、技術・家庭、外国語、保健体育、特別の教科 道徳
 高校：国語、地理歴史・公民、数学、理科、保健体育、外国語、家庭、情報、工業、商業

5 研究概要

2か年の調査研究とする。

- 1年目：他教科等との学習内容や資質・能力のつながりやこれまでの教科等横断型の学びについての事例を確認し、主に内容でのつながりの視点から実践を充実させる。
- 2年目：1年目の実践を基にして、教科等のねらいに迫るため、資質・能力を高める視点から、実践を充実させるとともに、より効果的な活用場面や活用方法を探る。

年度	委員会	内容(進め方)	
令和5年度	第1回(5/30)	○育成したい資質・能力、単元等、関連する教科の選定	
	第2回	検討	
	第3回		○資質・能力、単元等、関連する教科の検討 ○教科等横断で相談(指導計画・単元構想など)
	第4回	シミュレーション	
	第5回		○構想した単元等についてのシミュレーション(検証授業も可) ○中間報告(次年度に向けた単元等構想シート・アンケート)
令和6年度	第1回	検討・準備	
	第2回	実践	
	第3回		○検証授業の準備・実践
	第4回	検証	○教師の授業づくり・子供の学びの変容を捉える
	第5回	まとめ	○実践事例集・最終報告

研究のプロセス(進め方)が、
 まるごと学校の中で実践できるように…



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」



第1回 調査研究協力委員会 全体会の様子

教科等横断的な視点に立った資質・能力とは

学習の基盤となる資質・能力

- ・言語能力
- ・情報活用能力
- ・問題発見・解決能力

現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

- ・健康・安全・食に関する力
- ・主権者として求められる力
- ・新たな価値を生み出す豊かな創造性
- ・グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力
- ・地域や社会における産業の役割を理解し地域創生等に生かす力
- ・自然環境や資源の有限性の中で持続可能な社会をつくる力
- ・豊かなスポーツライフを実現する

○○の力を育成するために…

等

【構想した単元等に見られる教科等の組合せ例】※次年度の実践を想定して構想（一部今年度実施済み）

言語能力に関するもの

- ・小学校 4 学年 社会科×国語科×道徳科 [麦の生産量を増やす]
- ・中学校 3 学年 外国語科×国語科×道徳科 [目的・場面・状況を意識して伝える力]
- ・高等学校 2 学年 国語科×家庭科×英語科 [国語表現／スピーチをしよう]
- ・高等学校 2 学年 外国語科×地理歴史科 [英語コミュニケーションⅡ]
- ・高等学校 3 学年 商業科×国語科×外国語科 [総合実践]

情報活用能力に関するもの

- ・高等学校 1 学年 地理歴史科×国語科×理科 [地理総合／地球温暖化問題とその対策]
- ・高等学校 1 学年 数学科×情報科 [数学Ⅰ／データの分析]
- ・高等学校 2 学年 理科×家庭科×保健体育科 [生物基礎／酵素]

問題発見・解決能力に関するもの

- ・小学校 4 学年 体育科×理科 [器械運動・ボール運動]
- ・中学校 2 学年 道徳科×国語科×保健体育科 [自他の命の尊重]
- ・中学校 3 学年 理科×社会科×技術・家庭科（技術分野） [エネルギー資源の利用]
- ・高等学校 1 学年 情報科×数学科 [情報Ⅰ／モデル化とシミュレーション]
- ・高等学校 2 学年 家庭科×保健体育科 [家庭基礎／五大栄養素の働き]
- ・高等学校 2 学年 工業科×理科×地理歴史科 [建築実習／構造実験]

6 成果と課題

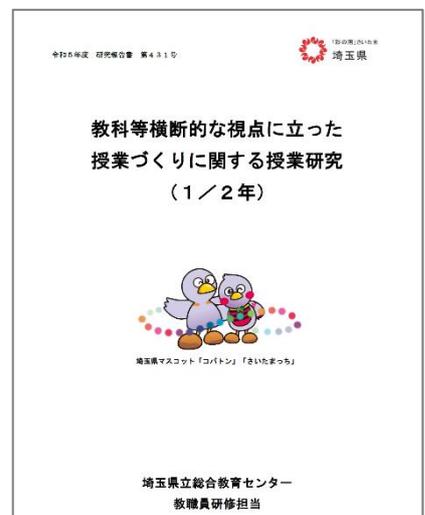
(1) 成果

① 学習の基盤となる資質・能力の育成を目指した「単元等構想シート」の作成

- ・ 研究協力委員が設定した「目指す児童（生徒）の姿」から、教科等横断的な視点で育成したい資質・能力である「課題」を設定し、各学年や教科において具体的な実践内容について考案した。それらを1枚にまとめたものを「単元等構想シート」とし、明瞭に把握できるようにした。

単元等構想シート ～学習の基盤となる資質・能力×現代的な諸課題に対応する資質・能力～

中間報告書



(例) 小学校理科を中心とした単元構想

② センター指導主事と研究協力委員による校種や教科を越えた研究の推進

- ・ 第1回研究協力委員会及び指導主事による担当内中間報告会では、聖心女子大学現代教養学部教育学科教授 益川 弘如 氏より、教科等横断的な学びを通して育てる学習の基盤となる資質・能力や、協働的な学びから個別最適な学びへつながる主体的・対話的で深い学びの過程で資質・能力を発揮させるポイント等、研究の推進につながる知見をいただいた。
- ・ 教科や校種を横断して、指導主事や研究協力委員が他教科や他校種の委員会に参加して、研究を推進した。
- ・ 研究協力委員からは、「教科の垣根を越えることで、児童生徒にとってより効果的に指導ができたり、学びが深まったりすると感じた」（中学）や、「他教科での学習内容について意識的に注目し、横のつながりを意識することができるようになった」（高校）といった声があり、教師の意識の変容が見られた。

～小中社会・小中理科部会 合同発表会の様子～



※単元構想に係る教科担当の指導主事も参加
(国語、社会、算数・数学、理科、技術担当)

(2) 課題

① 教科等横断的な学びを通して育成する資質・能力について－教科間の関連の整理－

- ・ 各教科部会にて検討を重ねながら教科等横断的な視点による授業を構想したが、育成する資質・能力について、教科間における関連については、今後、様々な方法で整理していく必要がある。
- ・ 次年度は、各実践を踏まえ、教科等横断的な学びによって得られる効果についてまとめていく。

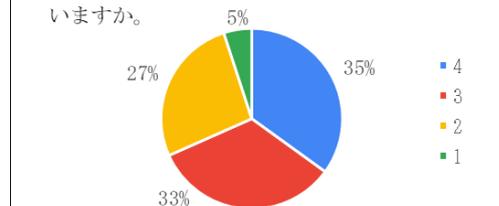
② 教科等横断的な学びの評価方法について

- ・ 実践授業における課題に対する評価（教科等横断的な視点で育成したい資質・能力の育成をどう見取るか）について整理する必要があると考える。授業の前後における児童生徒の資質・能力の変化を測るためのアンケート調査など、具体的な評価方法を検討していくことも課題として挙げられる。

③ 学校における教科等横断的な学びの浸透

- ・ 研究協力委員によるアンケート（右図）から分かるように、教科等横断的な授業づくりは、まだ十分に浸透していない現状がある。本研究で開発した授業実践例を広く積極的に発信していくことが必要であると感じる。

Q5 あなたは、教科等横断的な授業づくりに所属校で継続的に取り組んだ場合、他の教職員が教科・学年を越えて積極的に協力してくれると思いますか。



※ 4:とても当てはまる 1:当てはまらない (回答数 60名)

7 おわりに

今年度は、教科等横断的な視点に立った資質・能力を捉え、その育成を目指すために各教科の学びと関連付けて単元等を構想する研究を進めた。

今後は、各教科部会が本年度の取組から得た知見を基に、目指す児童生徒の姿に迫る資質・能力の育成を目指し、実際に授業実践及び検証を行う。

研究協力校の支援の下、実践事例を広く発信することで教科等横断的な視点に立つ授業づくりに関する課題解決の一助となり、授業改善と児童生徒の更なる資質・向上に繋がる学びを本県で実現させていきたい。